

災害の爪痕

記録的な大雨は、高梁市に甚大な被害を与えました。

川上町七地地内
(9月2日撮影)

増水した河川が濁流となり、路肩が崩れ落ちた市道。市内各地で市道や農林道が被災した。



成羽町佐々木地内
(9月2日撮影)

2日午後2時頃の土砂崩れにより通行止めとなった国道313号。通行止めは、3日午後6時ごろまで続いた。



川上町領家地内
(9月2日撮影)

谷からの土砂で市道に架かる橋が流出した。大量の倒木と土砂が領家川に流れ込んでいる。



松原町大津寄地内
(9月5日撮影)

4日昼ごろ、地盤が緩んだのり面が崩壊し、民家1棟が全壊した。市道も寸断されている。



▲西谷川の氾濫で浸水する川上幼稚園と川上児童館（川上町地頭・9月2日）



▲被災した川上幼稚園。フェンスや遊具が流された（9月3日）



▲中央ドームが川上幼稚園。右側が氾濫した西谷川。隣接する川上学校給食センターも浸水した（9月5日上空から）

豪雨がもたらしたものの

8月30日から9月4日にかけての記録的な豪雨で、市内各地で甚大な災害が発生。主要道路の寸断などにより、市民生活に大きな影響が出ました。

今回の豪雨が引き起こしたものは、災害だけではありません。人の優しさや温かさ、今後いつ起こるか分からない災害への心構えをもたらしました。

■問い合わせ 総務課行政係 ☎0205

8月30日から降り始めた雨は、9月4日までに285mmの雨量を記録。8月23日から25日にかけても、121.5mmの雨が降っており、水分を多く含んだ土地が土砂崩れを起こし、増水した河川が氾濫するなど、幸い人的被害がなかったものの市内各地に甚大な被害をもたらしました。

この期間に降った雨は、1年間の平均降水量の3分の1以上であり、記録的な大雨となりました。この雨の影響で国道や県道など主要道路が全面通行止めとなり、JRも運休。市民生活に大きな混乱が生じました。

市は、9月4日午前8時に災害対策本部を設置。午前9時35分、広瀬・河内谷地区の46世帯97人を対象に避難勧告を発令し、移動手段のない高齢者らを避難所に搬送しました。高梁川が氾濫水位を超える見込みと土砂災害の危険が増したため、午後0時55分、同地区に避難指示を発令しました。

※雨量はアメダス高梁観測所のデータ